

研修テーマ	「学び方のタイプ」
研修のねらい	①自分の得意な学び方のタイプを知る。 ②それぞれ得意な学び方があること、皆多様であることを理解する。 [キーワード] 学び方のタイプ（視覚型、聴覚型、体得型等） 多様性
期待される効果	- 自分の学び方のタイプを知ること、自分とは異なる他者（子ども）の学び方へのアプローチを考えることができる。 - 多様な学び方があることを知ること、授業づくりや他者との違いを認め合う風土づくりにつながると期待される。
進め方の例と 留意点(集合研修) ※留意点	研修にかかる時間（１０～１５分程度） １ はじめの説明（１分） これから、それぞれの「学び方のタイプ」についてミニ研修を行います。演習ではワークシートを使用します。その際、筆記用具を使用しますので準備ください※。それでは、はじめます。 ※各自で筆記用具を準備しておく。 ※ワークシート①のみ配付しておく。後ほど答え合わせとしてワークシート②を配付すると、先入観なく記入でき、研修効果も高まると期待されます。 ２ 演習（演習７分～１０分） まずワークシート①を使って、自分の得意な学び方のタイプについてチェックしてみましょう。各タイプのチェックがついた数をそれぞれワークシートの空いているスペースに記入してください。数が多くついたタイプが自分の得意な学び方である可能性があります。１分程度でチェックしてみましょう。 それでは、互いのワークシートを見合います。それぞれの違いや感じたこと等について、互いの気づきを大事にしながら話し合しましょう※。（グループによる意見交流２～３分） ※グループで共有する際は、２～４名程度で行うとよいでしょう。 得意な学び方のタイプの結果を全体で共有します。チェックが最も多かったタイプに手を挙げてください。タイプＡの先生？タイプＢの先生？タイプＣの先生？今年の職員（メンバー）では○タイプの先生が多いようです。それぞれの結果を共有してみて、どのような感想がありましたか※？（全体共有１～２分） ※「一緒のタイプがいると安心した」「相手と違って驚いた」「ちょっとずつ、みな違う」などの意見等が想定されます。それぞれの意見を大事に、肯定的なフィードバックを行いましょう。 （ワークシート②を配付） 実は、それぞれのタイプは次のような学び方のタイプでした。タイプＡは視覚型、タイプＢは聴覚型、タイプＣは体得型の学び方になります。（詳細はワークシート②を読み上げる） 全ての項目について全く同じようにチェックがついた先生はいないのではないのでしょうか。得意な学び方のタイプもその度合いも一人一人異なること、それだけ「人によって学び方が違う」ということをまず私たちが認識することが大切です。 これだけ学び方が異なる集団、子どもたちを前に、私たち教師は授業を行います。その際、「教師自身の得意な学び方に偏って教授しがちである」ということも認識しておく必要があります。多様な子どもたちがいる中で、それらに応じた分かりやすい授業のために、どのような工夫ができるか、考えていけるとよいですね※。 ※時間がある場合は、授業においてどんな工夫ができるか考えてみましょう。

	3 終わりに（3分程度） 今回は、「学び方のタイプ」について研修を行いました。今回はご自身の学び方のタイプを確認しましたが、本研修を通して子どもたちの顔を思い浮かべながら研修に臨んでいた先生も多くいたのではないのでしょうか。今回の気づきを大事にしながら、それぞれの得意やよさを活かせるよう、子ども一人一人についての理解を深め、指導・支援につなげていきましょう。 ・まとめとして、管理職の先生からひと言いただきます。 ・研修を受けて気付いたことや、明日から生かせそうなことを、アンケートに書いて提出してください※。 ※記入したワークシートやアンケートを回収して終了
進め方の例と留意点(独習)	研修にかかる時間（ 5～8分程度 ） 1 研修の準備をする ・ワークシート①②、本資料、筆記用具を準備 2 演習 (1)ワークシート①をチェックする (2)ワークシート②を見て確認する（他の先生と意見交流ができるとよい） 3 振り返り ・気付いたことや、今後やりたいことを、ワークシートに記入しておくことさらに研修効果が高まりますし、一定期間後に振り返ったときに、思い出しやすくなります。
使用する資料	①ワークシート①（コーディネートハンドブック「☆それぞれの学び方」P62） ②ワークシート②（コーディネートハンドブック「☆それぞれの学び方」P63） ③筆記用具（各受講者） ④研修の手引（本紙）